

特集 Special Topics

あなたの健康と命を守るために... がん検診を受けてみませんか？

日本人の約3人に1人は、がんによって命を落としています。がんになる確率は年を取るとともに高まり、特に働き盛りの世代では、罹患率が増加しています。

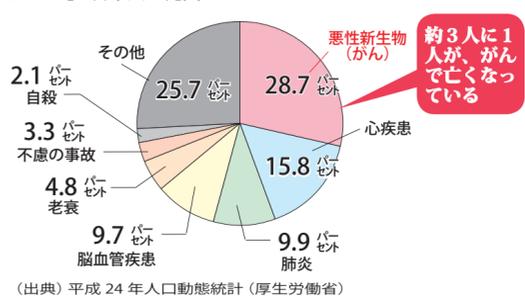
市では、生活習慣病の一つであるがんの予防を支援し、早期発見・治療のためのがん検診を推進しています。正しい知識をもって定期的にかん検診を受診しましょう。

問合せ 健康推進課

がんは日本の「国民病」

現在、わが国のがんによる死亡者数は年間30万人を超え、死亡原因

グラフ① 日本人の死因



表① 2010年の罹患率(全国推計値)が多い部位

Table with 5 columns (1位 to 5位) and 3 rows (男性, 女性, 男女計). Locations include 胃, 肺, 大腸, 前立腺, 肝臓, 乳房, 子宮, 腸胃, 大腸, 肺, 乳房, 前立腺.

んと診断される率)は、男性は胃がんが、女性は乳がんが第1位を占めています。(表①) しかし、検診と治療の進歩により、一部のがんでは早期発見、そして早期治療が可能となってきました。早期発見できた場合の5年生存率(診断してから5年間生存している場合)は、大腸がんが96・5割、子宮がんが92・9割、乳がんが98・2割となっております。がんの生存率は多くの部位で上昇傾向にあります。

と判定されたときは次回の検診へ、「がん」と判定された場合は治療へ進みます。 ※途中で精密検査や治療を受けない場合は、がん検診の効果はなくなります。

<がん検診Q&A>

～がん検診を正しく知ろう～

- 1) がん検診で精密検査が必要と判定されました。精密検査は本当に必要ですか?
2) 検診料金の高い検査が、がん検診として効果があるといえますか?
3) 症状があった場合には、どうしたらいいですか?

出典：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター「がん検診共通Q&A」

がんの予防のために

がんの原因として浮かんでくるのは何でしょう。ある方はたばこ、ある方は放射線を浴びられるかもしれないし、日本には胃がんや肝臓がんが多いのですが、その背景には細菌やウイルスの慢性感染があります。



「信頼のおける、がんの予防法」 国立国際医療研究センター 疫学予防研究部長 溝上 哲也 氏

「生活習慣には気をつけているから大丈夫」と言いたいところですが、そうはいきません。中年以降、がんにかかる危険性が高まるからです。そこで、もう一つの柱が検診。早期発見・早期治療により、がんによる死亡リスクを減らすことができます。更に、最近の研究で、大腸がん検診を受ける

「生活習慣には気をつけているから大丈夫」と言いたいところですが、そうはいきません。中年以降、がんにかかる危険性が高まるからです。そこで、もう一つの柱が検診。早期発見・早期治療により、がんによる死亡リスクを減らすことができます。更に、最近の研究で、大腸がん検診を受ける

受け続けましょう！ 市のがん検診事業

Table with 2 columns: 市のがん検診, 対象年齢. Rows include 胃・大腸がん (35歳以上), 肺がん (40歳以上), 乳がん (40歳以上の女性), 子宮がん (20歳以上の女性), 前立腺がん (50歳以上の男性).

65歳以上の方は 平成26年度各種がん検診が無料です 4月1日からの消費税率引き上げに伴い、高齢者の方の負担を軽減する目的で、平成26年度の各種がん検診は、65歳以上の方(平成27年3月31日までに65歳になる方を含む)の自己負担金を免除いたします。

最優先事項です。体を動かす 適正な体重を維持しましょう 適正な体重を維持することは、がん検診として効果があるといえますか? がん検診の効果は、がんによる死亡率が減少したということ

活習慣ががんに関わっているのでしょうか。近年の信頼できる疫学研究の成果から、肥満と運動不足ががんのリスクを高めることが明らかになっています。この2つは、体中の炎症物質やホルモンへの影響を介して「がんの芽」を育てる

下がるのが報告されています。内視鏡で「がんの芽」である腺腫を取り除くことが、がんの予防につながっているというデータです。今後、2020年の東京オリンピックに向け、スポーツへの関心も高まっていくでしょう。

市では、がんを早期発見・治療していただくため、がん検診を推進しています。 ※申込み方法や募集期間など、詳しくはその都度、市報に掲載します。

がん検診(子宮頸がん・乳がん・大腸がん)を無料クーポンを配布します 清瀬市では、がん検診の受診促進を図るため、特定の年齢の方に、がん検診(子宮頸がん・乳がん・大腸がん)の無料クーポンを配布します。

がん検診って 何をしますの？

乳がん検診: マンモグラフィという専用の装置で乳房をエックス線撮影します。乳房のなかがよく映るように、はざむようにして撮影するので、少し痛みを感じることもあります。

子宮がん検診: 子宮の入り口の細胞を軽くこすり取って、異常な細胞がないかを顕微鏡で調べます。痛みはほとんどなく、短時間で終わります。

大腸がん検診: 便を2回採るだけの簡単な検査です。便のなかの見えない血液を調べます。大腸内視鏡によって、大腸ポリープや早期大腸がんを発見し、切除できます。

肺がん検診: 肺をエックス線撮影します。たばこを吸う人は、医師の判断で喀痰検査(痰の検査)も行われる場合があります。

胃がん検診: バリウム(造影剤)と発泡剤(胃をふくらませる)を飲んで胃部をエックス線撮影し、胃の形や粘膜の状態などを調べます。

市の検診(胃・大腸がん)を受けました 検診はなるべく毎年受けています。異常がないと分かれば安心できますし、もし異常があっても早期発見ができるのでおすすめです。

